

26/7/19

pp. 39~49

・イギリスの薔薇十字運動

ロバート・フラッド (イギリス) : 1605年 オックスフォード大学 医学士・医学博士
↓ パラケルスス流のため うしめた。

1609年 内科医師協会 会士

「簡単な弁明」(1616年) : 薔薇十字団を弁明する文書

その後 次々に薔薇十字団的な論考を出版

これとは別に、実験室を持ち、実験助手を雇っていた⇒経済力があった

イライアス・アシュモール 1645年に議会派が内戦で実権を握ると
王党派の彼は田舎に引こもった

1646年 フリーメイソンに加入

1651年にウィリアム・バックハウスの嫁子(継母) → 1653年に実技を伝授
古代遺物研究家(⇒オックスフォード大学、アシュモリアン博物館)

トマス・ヴォーン オックスフォード大学中退 → 医師

1650年頃にカール・ハトリブの錬金術グループに参入
妻も錬金術師

「愛愛団の名声」と「愛愛団の告白」の英訳版を出版

化学派の錬金術
錬金術から化学へ
普救十字錬金術
(ヘルクス思想)

化学派の錬金術
(実践的な著作)

ハートリフ・グループ : サミュエル・ハートリフを中心とした
化学派錬金術のグループ

ヨハネス・バプティスタ・ファン・ヘルモン (ベルギー)

錬金術が化学に転換する時代的人物 1579年医学博士

ガスの概念を導入 (ただし現代の「気体」という意味だけではなく
物質性と霊性の混合物、という意)

死後息子が「医学の起源」を出版 → 当時のヨーロッパ医学の基本文献

スターキー・ボイル

ジョージ・スターキー (アメリカ) : ハーバート大学修士号取得後、錬金術にのめりこみ渡英
1650年 ハートリフ・グループに参加
ロバート・ボイルの病氣治療と同時に錬金術のオピニ
オンで死ぬ。

ロバート・ボイル

1660年の王立協会の創設会員

ロバート・フックの助成により真空ポンプを作成

1668年にラネラ子爵夫人キャサリンの邸宅に移り住む

(ハートリフ・グループや王立協会のメンバーで
交わりがあり、自身も王立協会の事務局長だった)

1661年 「懐疑的な化学者」

実験とその精密な分析を重視 → 近代科学の素地を築いた

一方で「アリストテレスの四大元素論や

パラケルススの三原質論を否定

粒子論 (まだ原子ではない) を導入した

だが、金属変成の可能性については終生信じもっていた

錬金術師ニュートン

ボイルの影響で1660年代に錬金術に触れ始める

トリニティ・カレッジの礼拝堂に設置された実験室で20年以上錬金術実験を行った
本来の物理学・数学と同等の熱量の研究

↓
自然科学の根拠を問い直す、という意図があった

過去の錬金術原理は正しいのか? 試すすら追試を続ける

↓
1687年「自然哲学の数学的原理」

機械論哲学を失回って完成させてしまうことで、唯物論・無神論の
萌芽を断とうとした。

17世紀末までに、化学は錬金術の一部ではなくそれ自体が一つの学問に
ニュートンもまた錬金術師と名乗るのをやめ、化学者となった

その後…… 18世紀

「燃素」(フロギストン)の導入、ラヴァジエの「元素」の提議
ものが燃えるという現象が説明可能に

↓
近代化学の礎となった、